

資源評価対象魚種の拡大に伴う予備調査

(資源評価調査)

寺門弘悦・寺谷俊紀・安原 豪・谷口祐介

1. 研究目的

資源評価対象魚種の拡大に伴い、本県沿岸で漁獲される主要な水産資源の適切な保全と、合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うため、科学的評価に必要な統計データや生物学的情報の収集を行う。

2. 研究方法

2021（令和3）年度に日本海ブロックの資源評価の対象に加えられた21種（アラ、アンコウ、イトヨリダイ、コブダイ、シロギス、タナカゲング、チカメキントキ、ニベ、ノロゲンゲ、ヒメジ、マゴチ、マハタ、マフグ、ホタルイカ、シラエビ、トヤマエビ、エゾボラモドキ、エッチュウバイ、クロアワビ、メガイアワビおよびサザエ：以下、2021年度追加種）および前年度に追加された魚種のうち本県が資源評価に参画する9種（ヒレグロ、クロダイ、ハツメ、チダイ、トゲザコエビ、クロザコエビ、キアンコウ、キジハタおよびシイラ：以下、2020年度追加種）について、島根県漁獲管理情報処理システムから出力した漁獲統計資料または産地市場の販売データから漁獲種類別漁獲量の集計を行った。また、類似種との混在が考えられる魚種について、産地市場での実態調査を実施した。

3. 研究結果

(1) 漁獲状況調査

2020年度追加種および2021年度追加種の2020年の漁獲量を集計した（図1）。キアンコウとアンコウは「アンコウ類」とした。トゲザコエビとクロザコエビは「ザコエビ」として括られていた。シラエビおよびトヤマエビは漁獲がなかった。ノロゲンゲは漁獲統計に該当魚種が確認できなかった。2021年度追加種のうち10種（アラ、アンコウ、イトヨリダイ、チカメキントキ、ニベ、ヒメジ、マゴチ、エゾボラモドキ、エッチュウバイおよびメガイアワビ）には類似種が混在する可能性が考えられた。

(2) 産地市場での混在実態調査

イトヨリダイについて浜田市場（沖合底びき網漁業）および大田市場（小型底びき網漁業、釣り漁業）において類似種との混在実態を調べたところ、ソコイトヨリの混じりが確認された。また、浜田市場に

おいて沖合底びき網漁業で漁獲されたアンコウ類（アンコウ、キアンコウ）について、切り身の状態で両種を判別する方法を考案した。

4. 研究成果

調査結果は（国研）水産研究・教育機構 水産資源研究所に送付した。アンコウ、イトヨリダイ、キアンコウ、クロダイ、ヒメジおよびマゴチは「令和3（2021）年度 資源評価調査報告書」として、その他の魚種は「令和3（2021）年度 新規拡充魚種作業状況報告書」として魚種別に取りまとめられて公表された。2021年度追加種のうち8種（アラ、シロギス、タナカゲング、ニベ、ノロゲンゲ、ホタルイカ、シラエビ、トヤマエビ）については、漁獲量が少ないことや分布状況を勘案し、本県は資源評価に参画しないことになった。また、イトヨリダイの混在実態およびアンコウ類の切り身状態での判別方法について令和3年度日本海ブロック資源評価担当者会議で報告した。

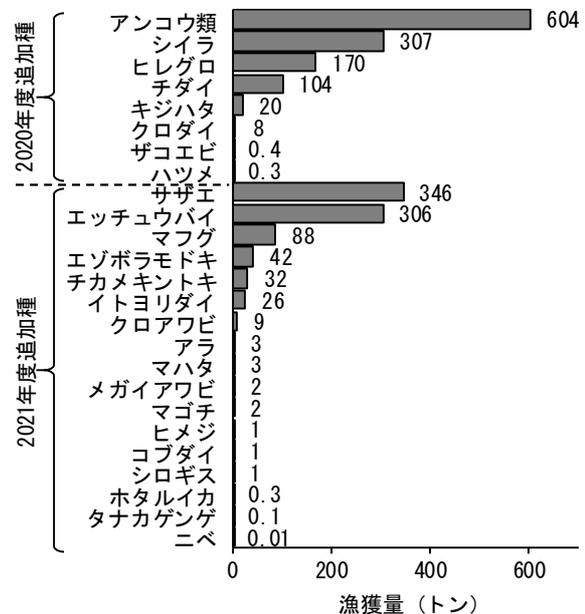


図1 2020年度および2021年度に追加された種の漁獲量（2021年）